

令和7年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和 8 年 5 月 26 日

団体所在地 安芸郡海田町寺迫 1-5-22

団体の名称 学校法人真證学園

職・氏名 園長 若林一茂

(施設名 東海田幼稚園)

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

年中・年長で近所の川で川遊びを楽しんだ。

【7月～9月】(夏季)

年長児が育てたタマネギとジャガイモを使い
カレーづくりを行った。

子どもたちは、タマネギの皮むきやジャガイ
モ、ニンジンを洗うお手伝いした。

【10月～12月】(秋季)

子どもたちが園庭にたくさん落ちた銀杏の葉
に興味を持ち、葉っぱを集めたり、空に投げた
りしながら遊びに集中した。

室内では、こすり出しで遊んだ。

【1月～3月】(冬季)

広島県自然保育推進アドバイザーの野崎ちな
つ氏を招いて、登山時の自然遊び等について助
言を得ながら、年長と年中児が近所の山に登っ
た。

活動報告（詳細）

【4月～6月】



（エピソード記述）

年中・年長で近所の川に川遊びに行った。

年長は昨年度経験していることもあり、川の歩き方や遊び方に慣れている様子だった。

年中は初めての川遊びに少し緊張した表情を見せる子もいたが、川の冷たさや心地よさを感じる中で笑顔が見られ、自然の中で思い切り遊び解放感を味わっていた。

保育者は魚が見つかりそうな場所を一緒に探したり、「草の中にかくれているかもしれないね。」と知らせたりすることで、自然への興味や発見につながるよう援助した。ペットボトルの魚入れを用意したことで捕まえた魚をじっくり観察する姿につながったり、子どもたち同士の会話が弾み、好奇心も広がった。生き物探しや水遊びを通して自然に親しみ、友達との関りも深まる楽しい時間になった。

【7月～9月】



（エピソード記述）

年長児が育てたタマネギとジャガイモを使いカレーづくりを行った。

年長児は収穫した野菜に親しみを持ちながらカレーづくりへの期待を高めていった。

満3歳児、年少、年中児はタマネギの皮むきやジャガイモ、ニンジンを洗うお手伝いを楽しみながら参加した。

保育者は「上手に剥けたね」と認めながら、意欲や達成感につながるよう援助した。

年長児は包丁で切ったり、野菜を鍋に入れるお手伝いをしながら、出来上がりを楽しみに待っていた。完成したカレーを食べると「おいしい！」「おかわりしたい」と大喜び。自分たちで育てた野菜を使って、食材への興味や楽しみが深まり、育てる喜びや食べる嬉しさを感じる姿につながっていた。

【10月～12月】



(エピソード記述)

園庭にたくさん落ちた銀杏の葉に興味を持った子どもたちは、葉っぱを集めたり、空に投げたりしながら遊びを広げていった。

集めた葉っぱを束ねて「ママにプレゼントしたい」と花束を作って楽しんでいる子がたくさんいた。保育者は一緒に感触を共有したり、子どもたちの気づきに共感しながら安心して楽しめる環境づくりを行った。

室内では、こすり出して遊んだ。葉脈の模様が浮き上がる様子に驚きながら取り組んでいた。

遊びを通じて友達と発見を伝えあったりする姿から共感する力や関りを楽しむ姿が見られた。

【1月～3月】



(エピソード記述)

広島県自然保育推進アドバイザーの野崎ちなつ氏を招いて、登山時の自然遊び等について助言を得ながら、年長と年中児が当園の近くの山に登った。

登り途中でのナンテンやヤエムグラの葉を用いた髪や服の飾りづくり、頂上についてからのツタを使ったリースづくり、木登りなど、子どもたちは非日常の遊びに夢中になっていた。

下山時に急な下り坂で転びそうになると、登山前にアドバイザーから教わった尻もちをつく転び方を実践していた。

アドバイザーからの今後についてのアドバイスを受けて、①山遊び、自然体験を日常化していくこと、②子どもが自分で考えて行動するよう、大人の見守る力を高めることを高めていくことを課題として共有した。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

職員が自然活動に興味を持ち、子どもたちの発見や感動に共感しながらかかわることができるようになってきた。

職員が、自然保育活動の実践を通じて次のような認識を持ち、保育の質向上につながった。

- ①時間や決まりに追われるのではなく、子どもの「やりたい」という思いを大切にし、しっかりと時間を確保して自然と触れ合ったり、遊びに取り入れたりしていける保育をする。
- ②普段から日常的・定期的に自然に触れ合うよう保育の見直しを行う。
- ③散歩や登山活動から持って帰った笹笛、草木や実を使った遊びを続け、広げていく。

- ・ 地域との関わりについて

地域の方に手作りの竹トンボを大量にいただき、飛ばしながら楽しく交流した。

地域の方から松ボックリやドングリ（顔を描いてある）をいただき、子どもたちが工夫して玩具づくりをし、色んな遊びにつながった。

- ・ 保護者との関わりについて

家庭で育てているキンギョを園に持ってきてくださり、子どもたちが身近に生き物に触れる機会となった。観察を通じて命の大切さや優しく関わろうとする気持ちが育った。

園で育てている野菜に興味を持ち、家庭でも野菜を育ててくださる姿が見られ、園での活動が家庭へと広がり職への興味が深まった。

- ・ その他

園庭でカブ、ソラマメ、イチゴ、ブロッコリー、タマネギなどの野菜を育て、旬の時期に子どもたちが収穫してみんなで食した。このように身近な自然に楽しみながら、季節に応じた自然体験を日常の活動に取り入れた。